

水俣病 旧軍爆薬説に反論

当らぬ工場側の結論

捨てた事実も聞かぬ

厚生省の諮問機関である食品衛生調査会水俣食中毒部会の調査委員長（前熊本大学長）は、二十三年午後、熊本市大江町の熊大医学部付属病院で記者団と会見、さる七日に新日報の古岡社長が発表した「水俣病の原因は旧軍隊が水俣湾内に捨てた爆薬ではないか」といふいづゆる爆薬説を「根拠のないものだ」と否定するとともに「社会をまよわす人道上の問題だ」と激しく非難した。

爆薬説とは日本化学協会の大島理事がさる九月現地調査結果をまとめた水俣病の中間報告書の示唆にもとづいて古岡社長が発表したもの。この発表のあと調査委員長らはさる二十日現地を調査した結果

爆薬説を全面的に否定したわけ。同委員長は記者会見で大要つぎのように語った。

一、爆薬の中心であるピクリン酸へキソールや四エチル鉛で起る中毒症状と水俣病の症状は違つ

また大島報告では「爆薬のカラが破れて二十一年に一度に中味が海に流れ出したのではないか」とのべているが、厚いカラが一度に破れるなど考えられない。

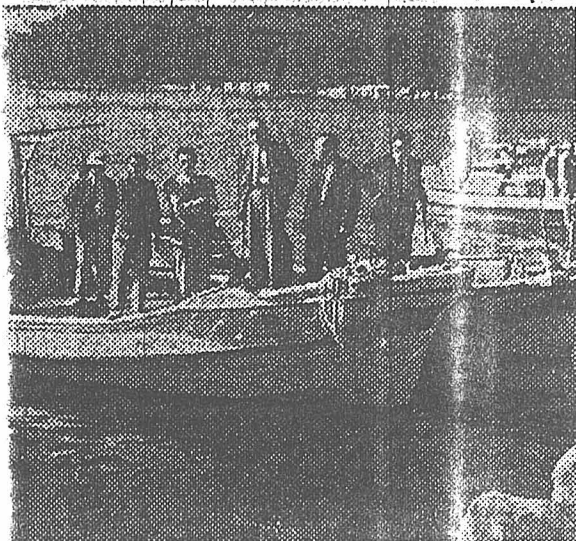
一、同報告書では「水俣市の茂道に、当時の軍需物資集積所の責任者である隊長がいるが、軍需物資の処理については一切知らない」とあるが、私の喜田村教授（医学部公衆衛生学）と熊渡真環衛生課長が二十日その隊長である甲斐元海軍少尉と会ったところ、同氏は三年前、入鹿山教授（同学部衛生学）にも話した。終戦当時の茂道の軍需物資はリストをつくって全部米軍に引渡した。馬車で水俣駅にはこび、貨車で三荷港にはこんだ。二百五十ポンド爆薬が五、六百個ぐらいたったと思う。陸軍高射

地元でも否定

水俣市湯堂の渡辺水俣病家庭互助会長ら同沿岸漁民は、二十三日新日報水俣工場がこのほど発表した四エチル鉛の猛毒物説と爆薬説に對しつぎのような反論を行なった。二十年八月ごろ同市茂道付近の軍需物資集積所には二十五ポカ

ら十ポカまでの小判爆薬はあったがそれらはみな溶けた。また同集積所には火薬やガソリンもなくわずかにガソリン代用のアルコール入りドラム缶二缶があつたきりで、これら物資は当

食 品 衛 生 会
調 査



一 行 松本班長を調査する

時汽車で佐世保方面に運ばれた
もようで同灣に捨てた形跡はな
い。われわれは水俣病の原因は
あくまで工場排水にあると信じ
ている。さる二十六年ごろ県が

同海域でしゅんせつ工事を行な
い海底をかきまぜ汚水が広が
ったため、名物のホフ鰯も不漁
となり海底の藻も姿を消し現在
では皆無に近い状態となった。